

人が暮らしたくなる  
森のつくりかた。



## 森林95%の村が挑む、地域の副業づくり。エーゼロ株式会社（岡山県・西粟倉村）

家族で安心して暮らせる、豊かな村へ。ここ岡山県西粟倉村で、2009年に株式会社森の学校を立ち上げた牧さん。村の木材を加工し付加価値を高めて提供していく“林業の6次化”に挑戦してきました。「林業に従事する若い移住者を積極的に受け入れ、それなりの成果はありましたが、来てはみたものの結婚を機に転出するなど、すんなり定住まで至らないケースが多いのが実情です。林業の安定性を高めるには、森林だけに依存しない地域経済を考えることが重要だと認識しました。」そこで今年新たに、エーゼロ株式会社では、林業従事者の副収入づくりと、生活基盤の整備を目的とした“副業経営基盤プロジェクト”を開始しました。目指すのは、移住者の所得水準をもう一段上げて不安なく生活できる環境を作り、定着率を改善することです。

農・林・水を、ぐるぐると。有望な副業として研究開発中のウナギ・ナマズの養殖は、林業で出た木屑を水槽の燃料に活用するなど、地域資源を循環させながら事業化できることが魅力。将来的には、各家庭の庭先や余っているスペースで行えることを目指します。木屑を農業の土壌改良剤に変えて利用する研究や、森林と関係の深い狩猟で農地の獣害を防ぎながら、ジビエとして収入源にするための準備も同時進行中。「重要なのは、規模よりも密度。ある所ではゴミになるものが、ある所では資源になる。農・林・水をぐるぐる回しながら密に関係し合うことで、内部循環比率の高い、中山間地の経済を確立させて行きたいと考えています。」より多くの移住者が安心して暮らせるよう、地元の木材を使い、気密・断熱性に優れた低コスト住宅も開発しました。

西粟倉村から、全国へ。地域のファンづくりと情報発信を担う広報の諸岡さんは、今年東京の大学を卒業し、エーゼロに就職して移住。「私自身、西粟倉村の魅力に惹かれて移住してきました。色々な立場の人が仕事を選べるような仕組みづくりに、この村は取り組んでいます。この先も、都市から若い人が途絶えず来るようになって欲しい。」地域再生のロールモデルとして、既に他の地域にも飛び火して動き始めているこのプロジェクト。林業と様々な事業をつなぎ、人を呼ぶ——そんな新しい未来のあり方を教えてくれました。



一般社団法人  
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA(農業協同組合)・JF(漁業協同組合)・JForest(森林組合)グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは <http://www.miraikikin.org/>

